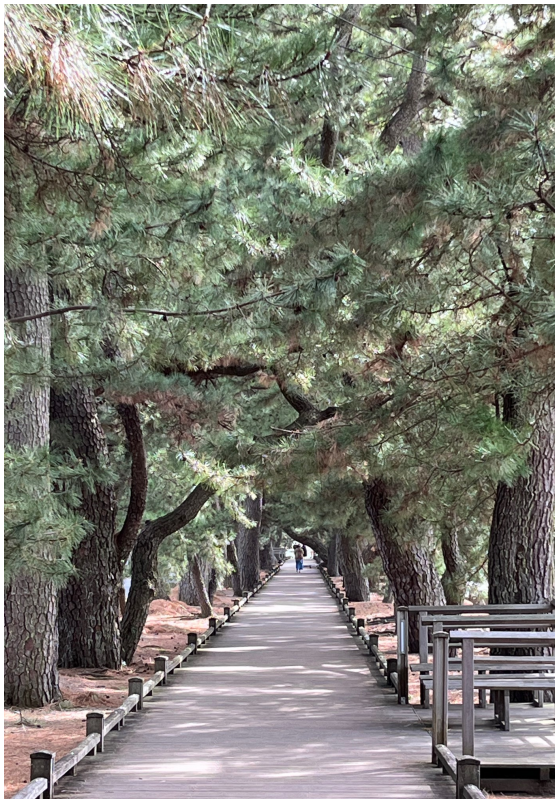
**けんちく寺子屋　中部編　第２回　レポート**
**『見学バスツアー三保松原（富士山世界文化遺産）＆フェルケール博物館（2024　2/17 ) 』**

会員増強及び建築士育成特別委員会

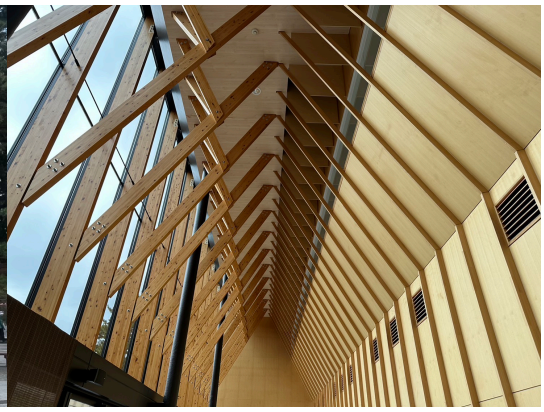
　静岡県の中部地区、言わずと知れた世界遺産富士山との三保松原のある清水港周辺がけんちく寺子屋の舞台だ。みほしるべと清水湊ゆかりの歴史文化を伝えるフェルケール博物館の二つの建築を視察見学するプチツアーが小雨がちらつく昼のJR静岡駅前から始まった。建築や建築士に関心を持つ学生や一般を対象とした応募参加者はキャンセルもありバスからジャンボタクシーに変更、一人の好青年を迎えスタートした。
スタッフ（士会会員）を東部と西部で1名づつ、中部からは2名参加者と合わせ計5名で廻る。送迎車内で一通り見学ツアーの主旨や自己紹介、建築士会の活動等を説明した後参加者Sさんは建築設計事務所に勤める30歳で建築士資格を得るべく通信教育を受けているということがわかった。
探訪案内をお願いした地元ボランティアガイド遠藤氏は鉱石にも詳しく浜辺に打ち上げる砂や石、三保半島ができた経緯など地質、地盤等まで解説してくれた。神社では廃仏棄釈の歴史も加わった。

ジャンボタクシーにて移動！



↑　**三保神社**

↑　**羽衣の松へ向かう『神の道』**
三保神社～約0.5km木道



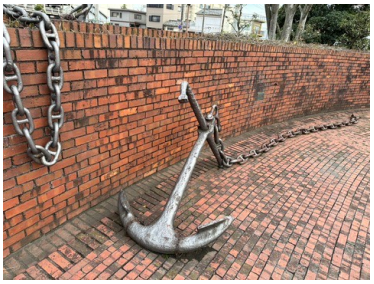
富士山見晴屋上テラス（撮影日曇天）　　みほしるべ館

**参加者の感想・期待と建築士資格**

　応募参加の方々が仮に一人となっても実施しようと事前の委員会で決めていた 。「けんちく寺子屋事業」の事前の応募人数は3名だったが諸事情で1名の参加となった。終了後感想を尋ねてみると、「少数なのに受け入れて実行してくれたこと、建築士資格を取得のための演習なども参加しやすくなった。」と好評を得る。合格後の建築士会への入会や士会活動に期待が持てたことは大きい。

**フェルケール博物館は・・・**

　レンガタイル貼の意匠デザインが視界に入ってきた。フェルケール博物館は港湾と経済の発達の歴史を貴重な資料とともに展示しており、ドア取手、窓など船舶に由来する意匠デザインが盛り込まれていた。館内は閲覧時間を決めての回遊自由行動となった。



**次回開催に向けて・・・**

　建築士会への入会は全国的に減少傾向になっている。一方、建築業界での建築士は人手不足が日常化している。建築を学んできた人達の受入れ体制が士会内にうまく作れていない。また世間の期待と希望を叶える職能を育てる場への道筋が士会の中に見えていない。建築士とは何か？何ができ、何をしようとしているのか？老いも若きも建築士、建築士会のあり方を考える時代のニーズに応えなければならない。来年度は東部ブロック地区を対象とした会員増強及び建築士育成委員会となると思われ、一人一人とつながり広がる方法に期待していきたい。